

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

子どもを「師」とする学び

校長 丹羽正昇



早いもので、令和5年も、残すところあとひと月です。12月は師走ともいわれています。一説には師と呼ばれるような普段落ち着いている人であっても、どこか気ぜわしく落ち着かない年末の日々を表しているともいわれています。忙しい日々の中でも、ほっとできる瞬間を見つけていきたいなあと思うこの頃です。

さて、過日行われました「ひぐみオリンピック」の子どもたちの感想が校長室に届きました。今回は、その一部(6年生のもの)をご紹介しますと思います。

「競技の中で、みんなと熱くなることができた。」「来年は中学生だから小学校の思い出をつくれたし、全力で楽しめた。」「自分のめあてを全部達成できた。」「騎馬戦、勝ったときは人生でそう多くないくらいの喜び!」「今年は何を一つにできたと思う。」「他にも同じように主体的な気持ちを綴ったものや感想が散見されました。さすがひぐみのリーダーだと感心しました。それらの中で、深く考えさせられる、まるで呼応するかのような感想にありました。」「**小学校最後のひぐオリを、めあて、スローガンどおり悔いなく楽しむことができた。だけど、クラス全員が参加できなかった。でも、休んだ人の分までみんなで分担して協力できた。だから自分としては、最高のひぐオリだった。**」「**病気で運動会に行くことができなくてやさしかった。でも、みんなが私の分まで頑張ってくれてうれしかった。今度は手洗いうがいをしっかりやっていきたい。**」

これらをお読みいただき、皆様はどのようなお気持ちになられたでしょうか。もちろんこれらは、示し合わせて書かれたものではありません。しかし、互いに相手のことをおもんばかっている様子が目に浮かびます。そこにはお互いに尊重し合う姿勢があります。学びにおいては「協働」といいます。学習に協働が必要な理由は多々あります。私が気に入っているのは、直面する課題を他人事(ひとごと)にせず自らが果敢に取り組もうとする「*教育的ブリコラージュ」という思考様式です。何これ?と思われるが当然。滅多にお目にかかることのない言葉です。この言葉、もう少し平たくすれば、正解か不正解か、役立つかどうかなどを気にせず、自分のもっている思いや気持ち、知識、情報を、相手を信頼してとりあえず他の人に伝えてみようという考え方です。そのような思い切った行動が、組織における新たな活動を創造することにつながるということが分かっています。その意味では、新しいひぐオリを創造した子どもたちだからこそ、先程の自然に呼応するような感想が出てきたともいえます。互いを信頼することからはじまる学びこそ、予測不可能な時代に一歩踏み出す力を育みます。互いをかけがえのない存在だと認め、大切にしたい、協働しながら学んでいるひぐみっ子。私たち大人の師となる資格が十分にある。私はそう思っています。

*レヴィニストロースのbricolageを福井大学の松木教授が再定義した用語(2023年度信州大学教育学部附属松本幼稚園・小学校・中学校公開研究会 講演資料 参照)

ほ・け・ん・し・つ

養護教諭 松永 彩技

「**ほ**っとするところ **け**んこうの話をするところ **し**ずかなところ **ら**いとき は来てください。」と、6年前の着任の挨拶で保健室の紹介で使った画用紙が、先日片付けをしていた際に見つかりました。今の保健室は、児童が健康診断やけがをした時、体調を崩した時はもちろん、「歯が抜けました。」「身長を測らせてください。」「スプーンがこぼれて服が汚れました。」「池に落ちました。」「紅白帽を忘れました。」「石けんください。」など様々な理由で来室します。その他、健康委員会の児童が休み時間に欠席お知らせボード(毎日の欠席人数やひぐみっ子へのメッセージ)やけが調べ、来室者のお世話などの活動をしてきています。決して**し**ずかなところではありません。

来室理由の一番は打撲傷です。躓いて机に足をぶつけたり、机と机の間に指を挟まれたり、廊下で転んで前歯を打ったり、部位も原因も多岐にわたります。打撲の場合は、特に一番痛みが強い部位しか訴えがないときが多く、よくよく全身を確認すると他の部位に内出血が見つかったりします。教室の戸に指を挟んだ時などは、本人たちは痛みを耐えながら、自分で挟んじやったからと不注意を悔やみますが、私たち職員も、教室の戸が安全に保たれていたかを必ず確認しています。安全な生活の仕方を児童に伝えるとともに、安全点検や改善を行い、再発に繋がらないようにしています。

児童は、何か心に引っかかりがある場合、年齢が低いほど、身体症状(腹痛、頭痛、気分不良、足痛)に現れます。自分でも気が付かない場合も多々ありますが、**ほ**っとして痛みが和らいで少しでも身体の緊張が取れるとよいなと思いながら、いつも手当てをしています。「子どもたちにとってどんな保健室だったらよいのかな」は永遠のテーマです。